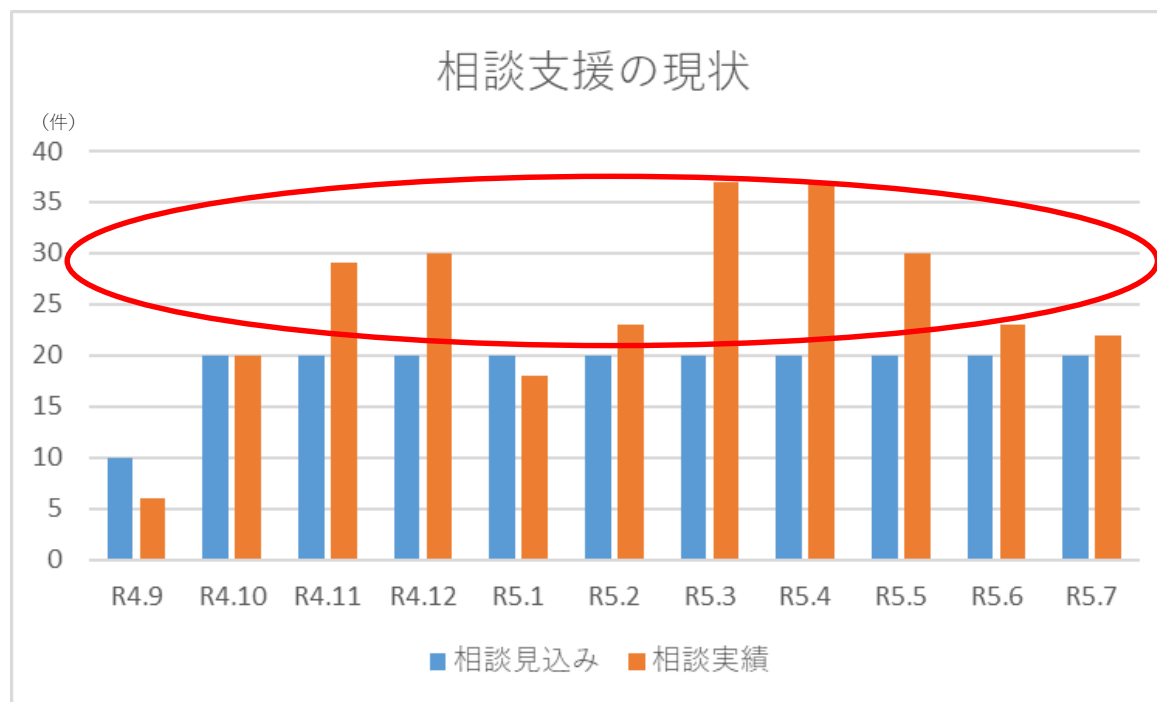


医療的ケア児支援の今後の方向性について

1 業務の現状について

(1) 相談支援

令和4年9月～令和5年7月（11か月）で210件の相談対応を想定していたが、実績は275件の相談対応を行っており、当初の想定より**対応件数が増加**。また、相談のうち1/3が医療的ケア児の家族、2/3が支援者から寄せられている。



(2) 体制構築

医療的ケア児等コーディネーター（以下「コーディネーター」という。）の各市町村の配置状況については、令和5年8月時点で、配置済み15、配置予定5、配置未定13となっており、市町村における体制整備は不十分であることが伺える。

医療的ケア児等コーディネーターの配置状況

	市町村名	市町村数
配置済み	盛岡市、宮古市、大船渡市、花巻市、北上市、陸前高田市、奥州市、滝沢市、雫石町、岩手町、紫波町、住田町、山田町、岩泉町、田野畑村	15
配置予定	遠野市、釜石市、平泉町、大槌町、軽米町	5
配置未定	久慈市、一関市、二戸市、八幡平市、葛巻町、矢巾町、西和賀町、金ケ崎町、普代村、野田村、九戸村、洋野町、一戸町	13

(3) 人材育成

コーディネーターについて、令和元年度～4年度の研修修了者は171名。修了者の所属については、福祉分野が97名ともっとも多く、医療分野は39名と少ない状況となっている。

R1～R4研修修了者の所属

福祉		保育		医療			その他
相談支援	障害児通所支援	保育所等	学童クラブ等	訪問看護	病院	市町村	
67	27	9	4	18	2	19	
97		13		39			22
171							

2 業務の現状分析と課題

(1) 現状分析

各市町村における医療的ケア児一人当たりの支援センターへの相談件数の割合（R4.9～R5.3）をみると、コーディネーターが配置されていない**西和賀町、八幡平市、一関市**からの相談が多い状況。また、他の市町村においても配置されている**コーディネーターは福祉職が多く**、医療関係の問い合わせに関しては対応がままならない。

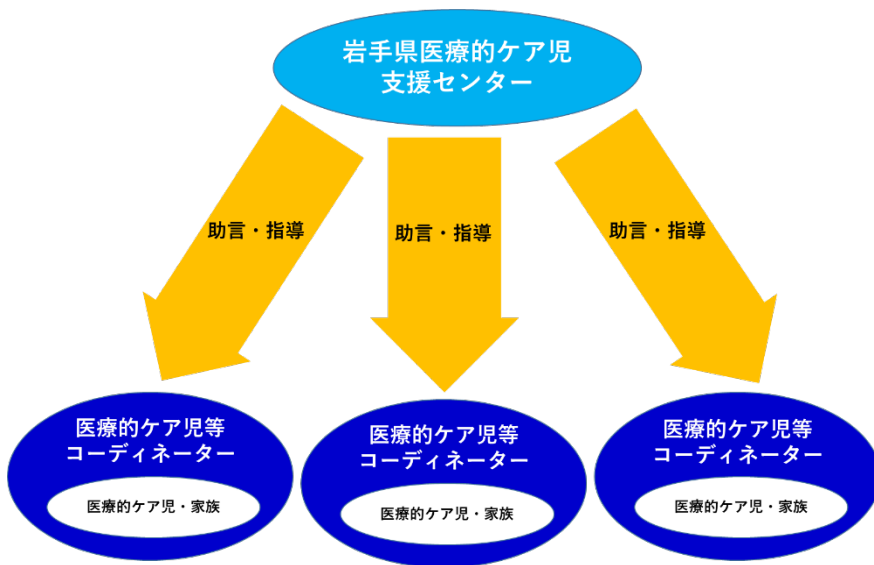
(2) 課題

地域における**コーディネーターの配置が不十分**であり、かつ、コーディネーターの職種も**福祉職に偏り**があるため、センターに寄せられる相談が多くなり、**業務が逼迫**。

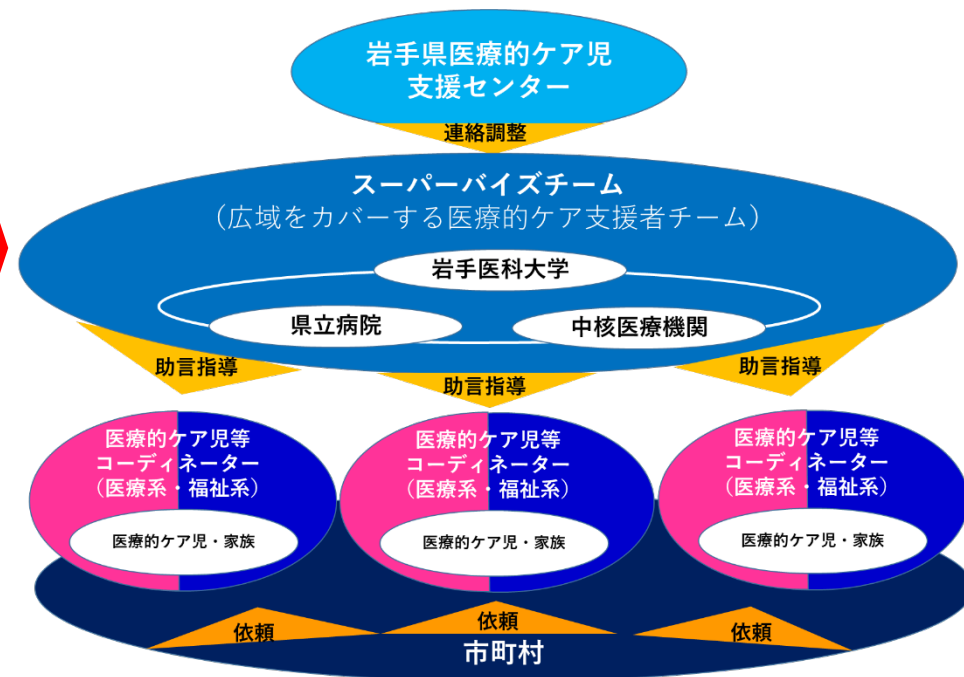
3 今後の方向性

各地域における支援体制を充実させるためには、コーディネーターを医療関係者が支える仕組みの構築が急務。このため、各圏域にある県立病院や中核医療機関等によるスーパーバイズチームを新たに形成し、支援体制を強化することが必要。

現在の支援体制



今後の支援体制



各自治体体制

退院時、退院調整看護師や地域連携室より自治体相談窓口へ連絡・情報提供

